

雜 錄

第2回發明展覽會開催 特許局長官中松眞郷氏より本會々長宛
題記の開催を周知され度趣き通達ありたり其全文下記の如し。

九特發展第 27 號 昭和 9 年 6 月 28 日

會長殿 特許局長官 中松 眞郷

發明考案の普及發達を圖る爲當局に於ては年々發明展覽會を開催することと相成居候處今般其の第 2 回展覽會を來る 11 月 1 日より 14 日に至る 2 週間に互り東京市麴町區丸ノ内三丁目府立東京商工獎勵館内に於て開催致候に就ては本會の目的達成を冀贊せられ度別紙印刷物に付委細御了知の上出品方可然御高配相煩度此段得貴意候也

添付印刷物 1. 解説書用紙、2. 出品計畫書用紙、3. 出品申込書用紙、4. 出品申込書記載例、5. 特許局發明展覽會規程

獨逸鐵市場の國內景氣及歐洲鐵工業近況 (昭和 9 年 5 月 5 日附在獨、長井商務書記官報告)

獨逸政府の産業獎勵策に最影響せられたるは各種工業にして、殊に鐵工業は政府の公共事業獎勵により最恩恵を蒙り、同工業生産品の輸出が依然として不振なるにも拘らず、其生産状態は著しく改善せられたり。即ち以上は全く國內消費の激増に起因するものにして、最近伯林景氣觀測所は、其第 1-4 期刊行物に於て獨逸國內市況の特徴に關し報告する處ありたるが、其概要次の如し。

獨逸國內鐵市況 1933 年獨逸の鐵生産状態を 1932 年に比較せば銑鐵は 34%、壓延鐵は 31% の増産を示し居れり、然るに壓延鐵の輸出は減退せらるるにも拘らず、其輸入は増加せるにより國內壓延鐵消費量は同年に入り實に 48% の激増を見たることとなれり、而して 1934 年 1 月及 2 月の状態も亦、壓延鐵國內需要増加は依然繼續しつゝあり。

諸外國の鐵生産及輸出を比較觀察すれば、獨逸鐵工業の上向的傾向が如何に其國內市場に負ふ處多きかを知ることを得べし。1932 年より 1933 年迄に 72% に達する粗鐵の増産を見たる米國を例外とすれば、其増産率(約 1/3)に於て獨逸鐵工業は世界第一位を占め、英國之に次ぎたり。

輸出の變遷を見るに、米國及佛國は前年に比し著しく其輸出を改善し英國は大體前年の程度を維持し得たり、之に反し白耳義盧森堡關稅ユ=オンの鐵輸出は 5%、獨逸の輸出は 11% 減少せり。即ち重要各鐵輸出國の加擔量は、獨逸にとり甚だ不利なる發展を見たり。

國際粗鋼カルテルの分擔量に關する新規定によれば、同カルテル全輸出に對する獨逸及佛國の加擔量は増率を見たりと雖、之を充分利用し得たるは佛國のみなり、獨逸の輸出と雖 1933 年 6 月 1 日カルテルの新規定實施せられて以來増加を見ざりしには非ざるも、前年の標準到達點には未だ相當の距離を示せり、何れにせよ獨逸輸出減退の原因は此カルテル關係に求むることを得ず、一般の意見によればカルテルは寧ろ好影響を與へたるものにして、主要原因は獨逸鐵工業自體の競争力不足並英貨の漸落及英國の保護關稅政策に在りとせらる。

自 1928 年至 1933 年歐米主要國鐵輸出の比較次の如し。但し比較の便宜上銑鐵、合金銑、半製材、梁材、棒鐵、上層建築用材、線材、帶鐵、鐵板各種、銑力及鐵管に關してのみ作成せらる。

年次	獨逸		白耳義及盧森堡		佛蘭西及ザール地方		英國		米國	
	(1,000t)	(%)	(1,000t)	(%)	(1,000t)	(%)	(1,000t)	(%)	(1,000t)	(%)
1928	3,017	17.5	4,124	24.0	4,356	25.3	3,592	20.9	2,106	12.3
1929	3,970	22.5	4,188	23.8	3,607	20.5	3,636	20.7	2,206	12.5
1930	3,047	21.7	3,558	25.3	3,463	24.7	2,529	18.0	1,448	10.3
1931	2,734	23.7	3,383	29.4	3,093	26.8	1,605	13.9	715	6.2
1932	1,457	17.0	3,163	36.8	2,078	24.2	1,593	18.5	303	3.5
1933	1,297	15.1	2,995	34.6	2,310	23.7	1,583	18.3	461	5.3

獨逸鐵工業の國際市場の劣勢はカルテルの價格拘束、値上の實現にも拘らず存續せり、國際カルテル協定の實施以來、調整を見たる一般標準輸出値段に比し、獨逸鐵の輸出價格が如何なる程度の高位に在るやは、多數の輸出統計に徴して容易に知り得る處なり、各國輸出鐵の品質的差異は容易に之を認知し得ざるも、獨逸側輸出品の他國のものに比して優良なるは、價格的に見たる獨逸輸出鐵の比率は、數量的比率に倍加する事實に徴しても明白なり、蓋し國際市場の現在價格は獨逸鐵工業をして主として品質高級なるを以て高價なる鐵材を輸出するを已なからしむるものなりと雖、景氣的原因により今尙吸収力限定せられつゝある現今の世界市場の斯の如き高級品の販賣取引は、全體より見て左程の重要性を有するものに非ず、將來獨逸鐵工業が其競争力を増進せしむる餘地は單に操業率増加による生産費の低下にあり。

獨逸鐵の對英輸出が英貨の下落及輸入關稅の實施により殆ど完全に喪失せられたるは次表に見るも明なり、1933 年の獨逸鐵對英輸出は 1929 年に比すれば僅に 1/10 に過ぎざりし状態なり、而して以上の喪失は永續的のものと豫想せらるゝと共に、英國鐵工業は益々世界市場の其競争力を強化し、獨逸の鐵輸出業に漸進的壓迫を加へんとする形勢を示しつゝあるに鑑み、此の如き事實は甚だ重要性を帯ぶるものなり。

世界市場の獨逸壓延鐵販賣状況次の如し。(單位 1,000t)

	1929年	1930年	1931年	1932年	1933年
北部歐羅巴	403	427	256	101	142
東部 同	52	60	40	17	12
蘇 聯 邦	91	86	660	697	196
中央歐羅巴	41	35	30	14	14
西部 同	1,689	1,440	1,133	371	413
内 佛 國	71	70	54	39	19
英 國	705	636	550	94	69
和 蘭	794	617	433	174	257
白耳義	57	46	34	19	25
南部歐羅巴	100	84	55	31	44
東南 同	101	91	115	25	34
歐羅巴總計	2,477	2,137	1,629	1,256	855
埃 及	23	25	10	5	16
英領南阿	70	71	89	13	49
支 那	56	56	59	26	46
日 本	298	128	116	63	141
米 國	122	84	63	27	18
亞爾然丁	214	158	95	44	63
伯 國	113	36	25	25	40
輸出總計	3,912	3,145	2,864	1,546	1,349

總體として 1933 年の獨逸鐵對歐輸出は、1929 年にして僅に其 1/3

となれり、海外諸國中日本及支那への鐵板輸出は近年に至り頗る増加せり、又 1933 年の對南阿輸出の増加は主として軌條輸出増によるものにして、一時的現象なるべしと觀らる。

歐洲鐵工業の近況 蘇聯邦は 1932 年度の不成績に鑑み、1933 年度は 5 箇年計畫の理想たる、粗鐵年産 950 萬噸を實現せんと努力を惜まざりしが、事實上辛うじて同計畫の 2/3 程度を實現したるに過ぎず、又鉄年産 900 萬噸も實現せられず僅に 720 萬噸を生産し得たるのみなり、而も第 18 回共産黨大會に於て、國民代表オルゾホニキツツエが報告したる處に依れば、同國が最近 3 箇年間に重工業に投資せる金額は 215 億留なりしと云ふ、蘇國の鐵工業成績が豫定生産高に比し斯の如き結果を見たる主要原因は生産組織の不統制、各社探掘設備の不良、操業を妨害する機械破損の頻發等に加ふるに、製鐵製鋼工場への原料供給不十分なる爲、鑄鐵爐作業が屢々中斷せられたる事實に在りしと見らるゝも、原料供給の不十分なるは蘇國交通機關の障害に起因するものゝ如し、黨大會に於てオルゾホニキツツエが同國鐵工業操業組織の重要缺陷に關し、公然説明陳情せる處に依れば、工場の所定労働時間の勵行は甚だ困難にして、操業時間 5—4 時間を出でざりし事屢々なりしと云ふ、企業の經濟的計算も漸次閉却せらるゝに至り、ドネツツ低地の工場のみにてても、1933 年最初の 5 箇月間に於て石炭 5 萬噸、骸炭 20 萬噸、鐵鑛 19 萬 4,000 噸を通常生産能率發揮に必要な以上消費したる事實あり、スターリン製鋼場の成績も之に似たるものあり、チルチエ製鋼場の如きは更に不成績を示したるものゝ如し。即ち生産は増加せるに拘らず、生産費は不變なりしのみか、寧ろ其比率の膨脹を見たり。

最近モロトフが發表せる 1934 年度の計畫も、鐵の増産を重要視せるものにして、同年は鉄鐵、粗鋼共約 40% の増産を豫定せられつゝあり、更に既存設備を考慮することなく、12 箇の鑄鐵爐、40 箇のシーメンス・マルチン爐、25 箇の壓延軌道及 3 箇の鋼塊壓延工場 (Blockwalzerke) が新設せらるゝ管なり、モロトフの計畫は之に止らず、更に將來 4 箇年間に 1932 年生産高の 3 倍に達する生産高に到達せしめんとするものにして、要するに蘇聯邦は如何なる犠牲を拂ふとも、完全なる鐵自給の域に達せんとするものゝ如し。

佛國、白耳義、盧森堡鐵工業及歐洲鐵工業國間協調の近況を見るに、1926 年に設立せられたる國際粗鋼カルテルが、充分其目的を達成し得ざりしを以て、1932 年中期に至り事實上解散の形となりたる以後 1933 年 6 月に至り獨逸、佛國、白耳義及盧森堡諸國の鐵工業者は、從來のカルテルに代はるべき國際粗鋼輸出カルテルを組織せり、此の新なる大陸カルテルは過去の經驗に鑑み、生産量の限定に關する協定を最初より放棄し、單に輸出量の割當を決定せるのみなり、之と關連して 1933 年 6 月 1 日には半製材、梁材、棒鐵、厚板、中板、ユニバーサル鐵帶鐵に關し各々其の國際販賣組合を設立せられ、新カルテルの實效を擧ぐべき基礎が定められたり。

此カルテル參加諸國間の利害關係は甚だ相背馳し居るも、全く混亂狀態に呻吟せる市況並市價を再び調整せんが爲には、大陸諸國內の壓延鐵輸出に關する了解は、絶対に必要なる状態に在りたる次第なり、獨逸鐵工業の立場より見れば、新協定參加は、本協定は獨逸側の國家經濟的要求に添はざる限り無意義なりしも、新輸出カルテルは生産全量を制限せず、單に輸出の統制を目的とせる點に於て、原則的には或程度迄獨逸側の要求に適へるものと斷定することを得べし。

此カルテルの效果は其後漸次明瞭となり、鐵材の價格を生産費以

上に轉落せしめ、各國鐵工業をして相當の損失を招かしめたる上記 4 箇國間の販賣競争は全く停止するに至れり、1933 年初期に於て著しく低落せる世界市價が、同年中期に至り再び堅實となり、其後も既に 2 回に亘り國際市價の値上を見たるは、新カルテルの基礎に於て國際的協調の實現せるを證するものなり。

國際粗鋼輸出カルテルの機構は、更に獨逸の例に倣ふ處多き白耳義及佛國の國內的鐵鋼組合の擴張により一層堅實なるものとなれり、例へば白耳義の粗鋼生産者は、結束してコンプトア・シデルルギツク・ベルヂユ (Comptoir Siderurgique Belge) を組織せる爲、既に鑄造鉄鐵 (Giessereiroheisen)、帶鐵其他 2, 3 の粗鋼に對し組合を有せる同國は、茲に於て鐵工業の組織的統制を完成せりと見ることを得べく、佛國も國際粗鋼カルテルの成立に刺戟せられて、鐵工業界のカルテル思想は躍進を見たり。

更に 1925 年に締結せられたる獨、佛コンチンゲント協定も引續き效力を保持しつゝあり、最近の獨、佛通商協約廢棄も同協定を危くすること無きが如し、又獨逸は波蘭及白耳義共販賣區域の相互的保護に關し交渉を行ひ獨、波交渉は最近雙方の満足なる了解に達し、獨逸鐵工業は波蘭鐵工業側に對し、獨逸國內市場の壓延物全販賣量の 0.07% に相當するコンチンゲントを與へたるのみならず、鐵屑販賣も或程度の讓歩をなしたるものゝ如し、斯くして歐洲大陸鐵鋼市場の重要諸懸案は、未だ實現に至らざる國際薄板販賣機關の問題及ザール地方に關連する諸問題を除けば、殆ど全部解決済となれり。尙獨、英間の造船材料販賣に關する了解は、1934 年 6 月 30 日迄繼續することゝなりたり。

國際粗鋼販賣カルテルの意義が、重要化しつゝあるは見逃す可らざる樂觀材料なりと雖、同カルテルの未だ尙他の諸重要生産國と角逐を續けつゝあるは忘却す可らざる事實にして、目を逐つて變化しつゝありし爲替關係に原因せられて、鐵の輸入國が輸出國に約變せるが如き場合もあり、瑞典は其例なり、又未だ局外者の立場を固執しつゝある、英國將來の態度も甚だ重要なり。

英國鐵工業の近況に付、同國鐵工業は既に數年前より世界市場に向て、其驕足を伸長す可く一段の努力をなしつゝありし處、政府の輸入關稅政策、爲替政策等に庇護せられて、1933 年度英國の鐵及鋼の輸入は前年に比し約 40% 減少し 99 萬噸となり、輸出は稍々増加して 200 萬噸となれり。和蘭及獨逸よりの輸入は最激減し輸出の好調なりしは、1932 年初期より實施せられたるオッタワ協定の結果なるが如し。

粗鋼世界産額中英國の占むる割合は種々なる原因により、1929 年以後約 1/4 方膨脹せり、毎月平均粗鋼生産量は、再び 1913 年の毎月平均量を超過するに至れり。

英國の鐵及鋼に對する輸入關稅は、最高 33 1/3 迄の率に於て、1932 年 10 月より向ふ 2 箇年間に亘り設定せられたるも、英國政府は此關稅を關稅有效期間に於て、同國鐵工業が焦眉の急なる改革を斷行す可きを條件として許可せるものなり、此主旨に従ひ 1932 年初期に於て、鐵工業改革委員會なるもの組織せられたるも、本委員會の提案せる改革案は、未だ實施するに至らず、英國鐵工業内面の意見の相異を解明せんが爲、政府は鐵の輸入關稅を廢止す可しとの高壓手段に出でたる状態なり、以上の委員會の會長たるチャールズ・ミッチェルは、鐵工業者が自由意志により方向轉換を斷行せんことを要求すると共に、多數生産者並地域別組合を監督し、必要に應じ之を合併し、冶金業生産品の組合値段を指定し、輸出援助資金として料金を徴集し更に外國に對しては現在のスチール・エクスポート

ト・アソシエーションを改革擴張して組織堅固なる製鐵、製鋼業者全英組合を組織すべきことを提案しつつあり、然し乍ら這般の案件に關する決定は、一先づ1934年4月19日迄延期せられ、其間該案の反對意見も述べられつつあり、雜誌エコノミツクの如きは、若し生産者側が本年4月に至るも再び政府の要求を忌避する場合は、政府は宜敷く強制合理化を執行すべきなりと主張し、全般的改革無き單なる保護關稅は鐵工業の萎縮を招來するものなりと説くに至れり。

敢て英國鐵工業界の諸潮流を通ずる一脈の共通點を見出さんと欲せば各關係企業家は一般政策、補充の範圍に於て既存生産設備を合併すると同時に、之を改善して能率を高め、鐵工業の經濟的基礎を復活堅固ならしむるを以て目的としつゝ在るが如し。

(海外經濟事情第24號)

ルイジアナ州硫黃産出状況 (昭和9年4月28日附在ニューオルレアンス、佐藤領事代理報告)

往時ルイジアナ州は硫黃の産出を以て名あり、一時世界市場を支配したることありしが、探掘費の關係にて、近年テキサス産にて獨占され、一兩年前より當市に本店を置くジェファソンレーキ・オイル會社にて、當州南部地方に新坑を發見し、爾來之が探掘に従事し、増産すると同時に海外輸出をも増加し最近350 噸をシーツレーン・ライン汽船により、ニュージャーシ州ホボケンに移出したり。此は國內需要に應ぜる初荷にて、今後此方面の要求は漸時増加するものとされ、年内迄に2萬噸位に上るべしと見らる。一方過般竣成を見たるルイジアナ、テキサス州際運河により1,500 噸の硫黃當市に到著したるが、之れは更に當地よりミシシッピ河イリノイス水路、オハイオ河を通じ、セント・ルイス、シカゴ其他北部工場地にバージにより運搬の筈にて、硫黃のバージ運搬も始めての試めなる趣にて、又此方面の需要も著増すべしと期待されつつあり。當地商業會議所及船會社等にては、硫黃鑛業の挽回に後援しつつあれば、本

業は向後相當隆盛の域に達すべしと觀測さる。(海外經濟事情第24號)

伊國輸入銅地金、銅屑其他の特許制實施 (昭和9年5月8日附在未蘭、井上領事報告)

伊國政府は、1934年4月14日附緊急勅令第54號(1934年4月16日附官報にて公布)を以て、次の通り發表せり。

油性種子類、銅地金、銅屑、羊毛及咖啡を伊國に輸入せんとする時は、特に許可を受くるを要す、以上の特許は前記商品の原産輸出國と、伊國との貿易關係を考慮して發給すべし。

本令は、官報公布の日より實施せらるべきも、前記商品にして、當日既に伊國に向け、輸送途中にあるものは、本令の適用を受けず。

因に本令に關し、本邦より伊國への輸出商品としては銅地金あり、1930年度當國大藏省調査に依れば、日本より銅約2萬キントール、價格1,062萬利を輸入し居れり。

尙、1934年5月6日伊國政府は、本緊急勅令を法律となす爲、下院に提出し、其理由説明として次の如く述べたり。

今日世界各國は國際通商貿易への影響を考量せず、只管國內政策の保護上、種々様々經濟的將又通貨的措置を講じつゝあるも、伊國は常に貿易及取引の増大は、世界經濟復興の基礎を爲すものありと確信し、濫りに他國の例に倣はず、極めて公平の態度を持し居たり。然し他國が、世男的經濟との關係を無視して、自己的措置のみを講ずるならば、伊國も亦、其蒙るべき損害を軽減する様、防衛措置を執らざる可らず。

伊國は、伊國と諸外國との貿易關係を極力均衡ならしめ、特に諸原料品原産國にして、伊國商品の輸入を輕視する場合には、是等諸國との均勢を得んが爲、其通商關係を規律する權利あり、以上の如き理由にて、取敢へず必需の原料品數種に對し、緊急勅令を以て應急措置を講じたり、云々。(海外經濟事情第25號)

濠洲對外並對日貿易統計の内拔萃

(1932年7月~1933年6月)

輸 出 (濠貨磅) (外務省通商局)

▲第11類 礦物及石	631,090	133,389	金屬、同製品及械機	4,623,670	216,450	針 金	10,326	—
石 炭	281,512	270	クリーム分離器	2,148	—	其 他	49,476	—
コ ー ク ス	4,687	—	内 燃 機	9,398	—	鉛	2,388,085	20,850
精選鑛(銅)	475	—	其他エンジン	10,806	—	屑 金 (除鐵)	29,715	724
同 (鉛)	9,322	—	農業及園藝器具	30,738	—	釘	4,352	—
同 (銀)	94,028	—	電氣機械同附屬品	246,364	—	金 屬 網	27,191	—
同 (錫)	14,130	—	鑛業用機械	29,808	—	金屬パイプ	11,477	—
同 (亞鉛)	179,200	195,211	マシオンツール	6,336	—	メタルウエーヤ	5,458	—
同 (其他)	35	—	裁縫用機械	25,096	—	白金、イリヂウム其他	5,257	—
石 膏	1,531	—	タイプライター同部分品	4,521	—	印刷用品	5,895	—
雲 母	844	—	其他機械	155,478	799	水 銀	139	—
粘 土	2,753	—	合 金 類	6,465	—	レール其他	2,734	—
鑛石(コバルト)	1,070	—	アルミニウム	134	—	錫 (塊)	189,773	—
同 (銅)	5,750	—	アンチモニー	277	—	道具(鑛冶、大工、左官用)	8,787	—
同 (金)	4,666	—	釘 及 鋸 類	7,057	—	車軸及乗物用スプリン	5,070	—
同 (鐵)	7,908	7,908	眞 鍮	781	—	自 轉 車	751	—
同 (マンガン)	10	—	カドミウム	37,083	1,325	自 動 車	75,628	594
同(モリブデン)	2,179	—	銅 及 同 製 品	464,658	—	自 動 自 轉 車	1,400	—
同 (銀)	4,424	—	索 條 類	4,967	—	其他乗物	32,074	—
同 (錫)	6,778	—	刃 物 類	3,416	—	亞 鉛 板 及 屑	578,448	148,012
同(タングステン)	1,976	—	鐵及鋼(塊、錠、條等)	75,509	—	亞鉛板及屑	216	—
同 (其他)	5,299	—	銑 鐵	5,523	—	其他金屬製品	202,669	207
黒鉛其他	497	—	鐵 及 銅 板	16,128	—			
石材及スレート	2,016	—	屑	44,828	43,227			
▲第12類			亞鉛鍍鐵板	1,230	—			

輸 入 (噸貨磅)			輸 入 (噸貨磅)					
▲第 11 類 礦物及石	579,336	—	製 氷 機	9,632	—	鐵 及 鋼 (屑)	1,474	—
アスベスト	19,768	—	ローラーベアリング	91,322	—	同 (針金)	98,149	—
アスファルト、ピチ	183,820	—	及ボールベアリング	—	—	熨斗及ハンダ	7,346	—
ユーメン、ビッチ	—	—	護謨製造機械	1,708	—	釜及臺所道具	6,328	—
木 炭	1,464	—	裁縫用機械	112,801	—	刃 物 類	2,186	—
石 炭	265	—	鋸 機	4,104	—	ランプ及同部分品	178,854	11,618
コークス	658	—	軸 系 (可挽)	1,130	—	箔 (金、其他)	76,386	—
耐火粘土	22	—	同 (其他)	1,837	—	鉛	1,001	—
雲 母	2,578	—	剪 毛 機	51,422	—	錠	30,876	—
鑽石(アンチモニー)	3,073	—	碎 岩 機	12,247	—	可 鍛 鑄 鐵	3,286	—
同 (鐵 礬 土)	462	—	製 糖 機 械	919	—	釘	38,071	—
同 (クロム)	15	—	製 革 機 械	2,124	—	金 屬 網	2,206	—
同 (氷 晶 石)	6,036	—	製 繩 機 械	10,947	—	ニ ッ ケ ル	12,724	—
同 (長 石)	1,337	—	製 絲 機 及 織 機	304,667	2,515	金 屬 パイプ 及	416,024	—
同 (マンガン)	4,533	—	空 氣 工 具	17,894	—	チ ュ ー ブ	—	—
同 (其 他)	10,556	—	タイプライター	77,285	—	ピン、フック及	7,054	—
黒 船 其 他	6,361	—	同 部 分 品	28,488	—	鉤 針 編	—	—
水 銀	7,050	—	同 秤 量 機	28,488	—	皿、スプーン、フ	344,292	6,319
石 (含大理石及スレート)	212,298	—	製 材 機	9,598	—	オーク、ナイフ	—	—
▲第 12 類			其 他 機 械	252,103	511	彫刻及印刷用金屬板	15,432	—
金屬、同製品及機械	10,128,134	95,452	(ロ)金屬及同製品	6,684,760	56,997	ピストン環、	7,054	—
(イ) 機 械 類	3,443,374	33,316	合 金 類	79,381	—	ピストンピン	7,807	—
計 算 品	37,943	—	アルミニウム	112,280	—	金屬 (板、光澤出、模倣入)	7,807	—
壓搾器及吸氣器	5,751	—	同 製 品	4,742	—	白金(棒、塊、板等)	5,137	—
製 靴 機 械	9,753	—	アンチモニー	2,158	—	印刷用材料	3,543	—
ブラッソ製造機	1,343	—	廢臺及同部分品	61	—	鐵 道 用 材 料	8,834	—
鐘 詰 機 械	237	—	釘 及 鉸 類	3,031	—	鉸	9,397	—
金 錢 登 録 機	24,089	—	眞鍮、青銅、砲金	9,693	—	ネズ鉤、眼螺旋等	4,533	—
洋灰製造機械	91	—	口 金 (鑄等の)	16,553	—	ネ ズ	10,340	—
起 重 機 械	1,260	—	鎖	23,574	—	噴霧器(香水用)	612	—
搾 乳 機	196,848	—	銅	73,788	—	ボールベアア	2,036	—
電氣機械及同附屬品	1,423,462	30,285	索 條 類	33,841	—	リング(鋼鐵)	—	—
フェルト及ラニ	—	—	坩 堝	616	—	スト ー ヴ	1,338	—
ルト帽製造機	1,814	—	シリンダー	31,397	—	タ ン ク	6,353	—
農業、園藝及葡	82,926	—	シヤンデリヤ、ガ	—	—	錫 (塊)	1,674	—
萄栽培用機械	—	—	ス燈吊、吊垂燈	4,817	—	道具 (鍛冶、大工、左官用の)	161,970	2,369
氣體液化用機械	687	—	配電版及鉛版	1,522	—	瓦	3,429	—
家庭用衣類壓搾機	4,414	—	エナメル器物	32,953	10,987	航 空 機	17,711	—
燐寸及同箱製造機	2,423	—	鳩目及フック	9,048	—	車軸、ローラー及	7,539	—
金 工 機 械	96,074	5	締 め 具 及	7,973	—	ボールベアリング	—	—
製 粉 機	4,241	—	マシオンベルト	—	—	ブレーキ及送電線	60,914	—
鑛 業 用 機 械	53,532	—	爐 欄	43	—	自轉車及同部分品	355,859	1,850
發 動 機	356,080	—	火消及自動消火散水器	4,520	3	自 動 車	1,435,771	—
抄 紙 機 械	8,001	—	ガス装置器具	24,351	—	小兒車及同部分品	2,825	1
紙 箱 製 造 機	30,621	—	蝶 番	7,596	—	三輪車及四輪車	7,487	6,284
製 本 機 械	1,017	—	鐵及鋼 (棒)	149,710	—	其他乗物及部分品	183,424	16
印 刷 機 械	108,455	—	同(カーボン及口金鋼)	816	—	金 網	5,199	—
滑 車	327	—	同(鐵を含む合金)	60,932	2,746	其 他 針 金	15,968	—
ボ ム プ	5,868	—	同 (環)	105,049	—	亞 鉛	19,551	—
道路工事機械	301	—	同 (銑鐵)	6,109	—	其他金屬製品	438,070	14,804
			同 (板)	1,401,892	—			

(海外經濟事情第 23 號)

內外最近刊誌參考記事目次

The Foundry, May, 1934.

- Simplify Casting of V-8 Cylinder. Pat Dwyer. pp. 14-17.
- What Should Govern Cupola Slag? Fred J. Walls. pp. 18-19.
- Future of the Foundry Industry. H. W. Gillett. pp. 22-23.
- Discover Ancient Bronze in Sweden. Sixten O. V. Nilsson. pp. 24-25.
- Desulphurizing with Fused Soda Ash. George S. Evans. pp. 26-27.
- Prevent Losses with Proper Gates and Risers. Pat Dwyer. pp. 43-44.

Metal Industry (New York), June, 1934.

- Aluminum Polishing. p. 198.
- Press Casting Brass and Other Copper Base Alloys. Charles Pack. pp. 199-201.
- A Brass Foundryman's Progress. Otto Gerline. pp. 202-204.
- Sawing Aluminum. p. 204.
- The Welding of Copper. J. F. Springer. pp. 205-206.
- Calculating the Karat of a Gold Melt. p. 207.

The Metal Industry (London), May 11, 1934.

- Office and Business Methods in the Modern Foundry. S. Howard Withey. pp. 483-486.
- Fluxes and Slags in Brass Foundry Melting Practice. T. Tyrie. pp. 487-490.
- National Physical Laboratory—Record of Last Year's Work. pp. 491-492.
- The Mechanism of Electrodeposition. L. B. Hunt. pp. 493-496.

The Metal Industry (London), May 18, 1934.

- An Historical Sketch of Copper Swelting. H. R. Potts. pp. 507-510.
- The Viscous Properties of Extruded Eutectic Alloys of Lead-Tin and Bismuth-Tin. pp. 510-514.
- The Electrodeposition of Tin from Sodium Stannate Solution with the Use of Insoluble Anodes. A. W. Hother-sall, S. G. Clark and D. G. Macnaughtan. pp. 517-520.
- Electrochemical Properties of Germanium. J. Ivan Hall and Alfred E. Koenig. pp. 520-521.

The Metal Industry (London), May 25, 1934.

- Hard Facing. C. H. S. Tupholme. pp. 531-532.
- A Historical Sketch of Copper Swelting. H. R. Potts. pp. 533-535.
- The Viscous Properties of Extruded Eutectic Alloys of Lead-Tin and Bismuth-Tin. pp. 536-538.
- Fluxes and Slags in Brass Foundry Melting Practice. T. Tyrie. pp. 540-541.
- National Physical Laboratory—Record of Last Year's Work. pp. 542-543.

Heat Treating and Forging, May, 1934.

- Ingots for Forgings. J. H. Hruska. pp. 219-222.
- Special Steels for Ship Building. Arthur Lamsley. pp. 222-223.
- The Safe Use of Chains. Victor Tatarinoff. pp. 224-226.
- Alloy Steels in Industry. H. C. H. Carpenter. pp. 227-232.
- High Test, Heat Treated Alloy Cast Iron. E. F. Lake. pp. 233-236.
- Steel in General Shop Practice. Frank J. Allen. pp. 237-242.
- A New Alloy for Springs. pp. 243-245.
- A Comparison of Solid Liquid and Gaseous Fuels. J. C. Barclay. pp. 247-248.
- Developments for Obtaining Fuel Economy. George C. Davis. pp. 249-250.
- Short Cycle Malleablizing Furnace. p. 251.
- Refractories—Their Use and Manufacture. Alfred H. Laveless. pp. 252-253.

Zeitschrift für Metallkunde, Mai, 1934.

- Die Erholung metallischer Werkstoff von den Folgen der Kaltbearbeitung. G. Tamman. s. 97-105.
- Über innere Mechanik der Metalle. W. Kuntze. s. 106-112.
- Kinetik und Zustandschaubild der irreversiblen Umwandlung im System Eisen-Nickel. U. Dehlinger. s. 112-116.
- Über die Reinheit von Metallen vor 2000 Jahren. August Ebellling. s. 116-118.

- Einfluss von Schwermetallen auf Aluminiumlegierungen. s. 118.
- Aus den metallkundlichen Arbeiten der Physikalisch-Technischen Reichsanstalt, Berlin. s. 119-120. (若林)
- Archiv Eisenhüttenwesen, 7 Jrg., Heft 11., Mai 1934.**
- Zur Metallurgie des Tiegelschmelzverfahrens. Bardenheuser, P. u. W. Bottenberg. s. 595.
- Die Berechnung des Druckverlustes in Rohrleitungen und Kanälen. Barth, W. s. 599.
- Ueber Stzverluste und Widerstandsbeiwerte in Rohrleitungen und Kanälen. Euler, H. s. 606.
- Die Bestimmung der Tonerde im Stahl. Klinger, P. und H. Fucke. s. 615.
- Kerbempfindlichkeit von Stälen. Thum, A. und W. Buchmann. s. 627.
- Ausscheidungshärtung bei Eisen-Chrom-Molybdän- und Eisen-Chrom-Wolfram-Legierungen. Scheil, E., K. Bischoff und E. E. Schulz. s. 637.
- Das Aufnahmevermögen der Eisen-Molybdän-Legierungen für Wassestoff und Stickstoff. Sieverts, A. und K. Brüning. s. 641.
- Ueber die Nitrierung von Eisen und Eisenlegierungen. IV. Meyer, O. und W. Schmidt. s. 647.
- Blast Furnace and Steel Plant V. 21, No. 5 May, 1934.**
- A Coal in Blast Furnace Practice. Rudolf. p. 261.
- Roll Pass Design in a Russian Mill. Braun and Kettler. p. 263.
- Finishing the Heat of Steel. Hruska. p. 268.
- Trend of Blast Furnace Stove Design. Kinney. p. 270.
- Metals and Alloys V. 5, No. 5, May, 1934.**
- Action of Fluorspar on Open Hearth Basic Slags II. p. 83.
- Probability in Tin-Plate Practice. Post. p. 89.
- Is There a Test for Machinability? Graham. p. 93.
- Rapid Determination of Oxide in Molten Steel. Egan, Kinzel and Price. p. 96.
- Zinc Die Casting Alloy Aging Data. Anderson and Werley. p. 97.
- The Pickling Tank of Tomorrow. Hoover. p. 100.
- Fluting in Annealed Sheet Steel and its Elimination. Eisson and Clark. p. 103.
- Dimensional Changes in Die Casting Alloys Metastable Beta Phase in Al-Zn-Alloys. Kennedy. p. 106.
- Non-Aging Iron & Steel for Deep-Drawing. Hays and Griffiths. p. 110.
- Iron & Steel Industry, Vol. VII, No. 8, May, 1934.**
- Some Reminiscences of an Iron Moulder. Gudgeon. p. 255.
- New Distant Recording Apparatus for Rolling Pressures. Leonhardt. p. 259.
- Recent Developments in the Welding of the Austenitic Chromium Nickel Stainless Steels. Harris. p. 263.
- Field Test on Corrosion. Hudson. p. 274.
- The Physical Properties of Deposited Metal in the Arc Welding and Atomic Hydrogen Processes. Miller and Deglon. p. 279.
- Trans. Am. Soc. for Metals, V. 22, No. 5, May, 1934.**
- Application of Thermodynamics to the Deoxidation of Liquid Steel. Chipman. p. 385.
- Linear Thermal Expansion and Alpha-Gamma Transformation Temperature of Pure Iron. Austin and Pierce. p. 447.
- Basic Open-Hearth Carbon Steel for Cold Rolling—"Ingot to Wire". Arganbright. p. 471.
- Metallurgia, V. 10, No. 55, May, 1934.**
- Non-destructive Tests. Rollason. p. 9.
- Thermal and Electrical Conductivities of Metals & Alloys. Donaldson. p. 17.
- Corrosion of Zinc in Chloride Solutions. Borgmann and Evans. p. 22.
- Mit. Kais.—Wil. Inst. Eisenforschung Bd. 16.**
- Zur Kenntnis des Hochfrequenz-Induktionsofens. Weitere Beiträge zur Metallurgie des Tiegelstahlprozesses.
- Die Erzeugung von Werkzeugstahl im Kernlosen. Induktionsofen. Bardenhauen u. Bottenberg.
- Ueber den Formänderungswiderstand beim Walzen von Stahl in Kalibern. Siebel u. Lueg.
- Einfluss des Kohlenstoffgehalt und der Wärmebehandlung auf die Ziehbarkeit von Stahldraht. Pomp.
- Einfluss des Kohlenstoffgehaltes und der Patentierungsbedingungen auf die Festigkeiteigenschaften gezogener Stahldrähte. Pomp.
- Die Wasserstoffbrüchigkeit des Stahles in Abhängigkeit

45

von der aufgenommenen Wasserstoffmenge. Bardenhauer und Ploum.
 Das Eindringen von Messinglot in den Stahl als Folge der Wasserstoffaufnahme beim Beizen. Bardenhauer u. Ploum.
Stahl u. Eisen, 54 Jahrg, 1934.
 Richtlinien für die Messtechnische Ueberwachung von Hüttenwerksbetrieben. II. Stahl- und Walzwerk. 3. Mai. s. 437.
 Beizblasen auf Zink- und Stahlblechen. Vogel. s. 446.
 Rüttelversuche bei erstarrtem Stahl. Herzog 10. Mai. s. 462.
 Richtlinien für die Messtechnische Ueberwachung von Hüttenwerksbetrieben II. Stahl- und Walzwerk (Schluss). Sothen. s. 466.
 Zeichnerische Bestimmung der Stichfolge beim Walzen frei breiter Querschnitte. Ernicke u. Allbausen. 17. Mai, s. 492.
 Verwendung von gebräunten Kalkstein als Zuschlag im Hochofen. Baumgartner. 24. Mai, s. 509.
 Das Verhalten von Mangan, Silizium und Kohlenstoff bei der Stahlerzeugung. Laboratoriumsforschung und Betriebsversuche. Körber. 31. Mai, s. 535.
 Technische Fortschritte im Amerikanischen Feinblechwalzwerk. Klein. s. 543.
 Einfluss Verschiedener Elemente auf die Ausscheidungsvorgänge im Stahl beim Anlassen. Eilender. Fry u. Gottwald. s. 554.
 Untersuchungen über die Viskosität der Eisenhütten-schlacken. Hartmann. s. 564.
 Selbsttätiges Walzwerk für Federstähle mit langsame Abkühlung der Walzstäbe. Linz. s. 573.
 Zeichnerische Bestimmung der Stichfolge beim Walzen freibreitender Querschnitte. s. 512.

(田中)

電氣化學 第2巻 第6號
 濃硫酸中に於ける耐酸珪素鐵の陽極的動作 (第2報) 分極後の陽極放電の壓曲線と其の理論 富井 六造 (1)
石炭時報 第9巻 第6號
 石炭の自己粘結に就て(二) 森政 保 (2)
 山西省炭業の經濟事情 黃 伯 達 (9)
 滿洲の炭田概要(三) 近藤 正 耶 (26)
 探炭法圖解(其の八) 佐野秀之助 (42)
鑄物 第6巻 第6號
 鑄型製作法に就て 鈴木 庄藏 (3)
 非磁性鑄鐵に就て 渡邊 軍治 (13)
北海道石炭鑄業會會報 第237號
 昭和8年札幌鑄山監督局管内鑄業の概況
 札幌鑄山監督局 (1)
 炭田に於ける試錐法(12) 花江良太郎 (7)
 新興金山(其二)(昭和9年4月調査) (10)
駿工 第10巻 第6號
 鐵筋コンクリート構造計算規準解説(VII) 土岐 義道 (15)
海外經濟事情 昭和9年 第6號
 石炭需給狀況(武漢及廣東) (19)
 英國輸入シエラ、レオナ産鐵鑄事情(昭和9年4月16日 附在英、松山商務參事官報告) (47)
製鐵研究 第137號 昭和9年5月
 滿鐵含有量が屬延鋼材の機械的諸性質に及ぼす影響に就て(第3報) 城正俊、長井峻一郎 (1)
 大型 Killed Ingot に適する改良鑄型に就て(Gathmann式を更に改良) 内田 新八 (27)
 鐵炭素系合金の高温に於ける比熱並に相の變化に伴ふ熱量の變化に就て(1) 海野 三朗 (35)
機械學會誌 第37巻 第206號
 水及二三の水溶液の傳熱率 拔山四郎、吉澤幸雄 (347)
 金屬面と沸騰水との間の傳達熱の極大値並に極小値決定の實驗 拔山 四郎 (367)
 磁歪現象を應用したる振り振動測定器 森 茂 (243)
東京帝國大學航空研究所彙報 第117號 昭和9年5月
 白鳩號事故の原因並に過程 航空評議會事故飛行機調査委員會 (137)
 航空機關用高速 Roots blower の簡易線圖 柴田 浩 (172)
 プロペラの強度計算を簡單にする一つの試み 谷一郎、大島秀男 (186)
 摩擦抵抗と其の理論 小野 正三 (199)
電氣學會雜誌 第51巻 第6冊

金屬薄膜の電氣傳導 齋藤 幸男 (542)
工 政 170號 昭和9年6月
 軌條價格の安定 上村 義夫 (63)
研究報告 三菱航空機株式會社 昭和9年5月
 標準窒化用鋼の比較(其二) 石澤命知、尾形康夫 (1)
 氣管及び吸鏝の熱膨脹 石澤命知外2名 (28)
 珪素滿鐵鋼の彈柱履歷 須永信二、小川年彦 (37)
採鑄冶金月報 第20年 第6報
 鉛熔鑄爐中での金銀鉛の損失及金鑄裝入試驗 仲田 旭 (134)
海外經濟事情 昭和9年 第24號
 獨逸鐵市場の國內景氣及歐洲鐵工業近況(昭和9年5月5日 附在獨、長井商務書記官報告) (53)
地學雜誌 昭和9年6月 第46年 第541號
 ミデズペロ市とクリーブランド地方に於ける鐵鑄 千谷好之助 (269)
朝鮮鑄業會會報 6月號
 第4回鑄業技術員養成講習會 (17)
 昭和8年度朝鮮鑄業會決算書 (19)
日本ニッケル情報技術彙報 B-25
 高温に於けるニッケル合金鑄鐵 藤原 唯義(全卷)
電氣製鋼 第10巻 第6號
 電解ニッケルの顯微鏡組織及び機械的性質に及ぼす燒鈍の影響に就て 金友 濤聲 (219)
 滿鐵一珪素合金に依る鋼の脫酸 N 生 (230)
朝鮮鑄業會誌 第17巻 第1號
 古文獻に顯はれたる朝鮮鑄産物の産地 川崎繁太郎 (1)
 江原道金化郡金城面のニッケル鑄床 素木 卓二 (150)
 モナザイト砂(Monazite Sand)中の稀土類元素の分析法 繁野 安藏 (159)
鑄接協會誌 第4巻 第3號
 電弧鑄接應用の金屬構造物設計に就て 孕石 元照 (153)
 軟鋼鑄接棒の研究(第1報) 岡本起外2名
 鋼管の炭素電弧自働鑄接機に就て 藤野 卯吉 (171)
日立評論 第17巻 第6號
 我國工業發展の理由と其將來 菰田 成亮
 鋼管製造用直流ミル電動機 柿原 吉三 (7)
 ミル電動機の制御裝置 横須賀善司 (11)
海外經濟事情 第25號 昭和9年6月25日
 伊國輸入銅地金、銅屑其他に特許制實施(昭和9年5月8日 附在未蘭、井上領事報告) (27)
 車輪用鐵製外輪事情(ケーブタウン)(昭和9年4月18日 附在ケーブタウン藤村領事報告)
燃料協會誌 第141號
 磐城炭礦の粉炭取扱に就て 龜田 修造 (714)
 常磐炭に就て 松波 秀利 (721)
 浮沈試験による石炭の性質並に洗炭方法 下野 十朗 (754)
日本鑄業會誌 第50巻 第590號
 含硫磺化鐵鑄の硫酸化焙燒に關する研究 桑原 武雄 (530)
滿洲技術協會誌 第11巻 第63號
 建設一周年の昭和製鋼所 (263)
 滿洲國內に尙發見せられさうな鑄物と發見されさうもない鑄物 新帶國太郎 (267)
研究報告 第372號 三菱航空機株式會社
 植込螺桿強度試驗 山本孝明外2名 (1)
 鋼材の加熱及冷却度測定 關口 次郎 (13)
 航空三號揮發油 \leftrightarrow ベンゼン \leftrightarrow トルエン混合物の凝固點に就て 町井 義夫 (23)
日本化學會誌 第55巻 第6號
 アルミニウムに對するマグネシウムシリサイドの固溶溶解能と電氣抵抗との關係に就いて(第3報) 岸野 佐吉 (528)
 アルミニウムを主成分とする Mg_2Si-Al 合金の狀態圖決定 岸野 佐吉 (533)
 酸化金屬磁石の磁性に關する研究 加藤與五郎外2名 (584)
大日本鑄業協會雜誌 第42集 第499號
 粘土質及びアルミナ質鑄物類の統計的方法に依る觀察と分類 西田 一雄 (17)
應用物理 第3巻 第7號
 金屬の電氣性質と波動力學 Leon Brillouin 芝 龜吉譯 (265)
エンヂニヤリング Vol. 22, No. 7
 金屬電弧鑄設計法 三好 巽 (254)
 低炭素鋼の滲炭及燒入に就て 小熊 容德 (249)